

日吉台地下壕保存の会

会報

第49号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL. 045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ：白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ：喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

\$

1999年度総会のお知らせ

日 時：1999年4月24日（土） 午後2時30分開場

場 所：慶大日吉キャンパス・藤山記念館会議室

総 会：2時45分～3時45分

懇談会：4時～5時半

日吉台地下壕保存の会の会員と言っても、顔も知らないし、話したこともないと言うのが現状です。たまには一言ずつ自分と地下壕のことや、戦争体験のこと、また、地下壕保存についてどうあって欲しいかなど、話してみると何か発見があるように思います。大勢の方のご来場をお待ちしています。

\$

目 次

ページ

1999年度総会のお知らせ	1
地下壕見学のルール作りについて	2
陸軍登戸研究所の保存について	2
自衛隊市ヶ谷駐屯地の旧陸軍	
大本營の一部移転復元なる	2
昭和館（九段）開館	3
ピースロード	4～5
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話	6～7
運営委員会報告	8



五十年 廣尾義塾高等学校

* 横浜市営地下鉄が鶴見～日吉～中山へと計画されている。
日吉周辺部通過の際、地下壕は?

地下壕見学のルール作りについて

慶大・湯川理事、高橋総務

課長と会議

慶大の高橋総務課長より、湯川理事（日吉担当）が地下壕のことで話合いを持ちたい意向なので、二月八日（一九九九年）午前一〇時日吉事務室に来て欲しいと電話があった。当日、保存の会からは寺田、亀岡、喜田が出席した。大学側の説明によれば、NHKが「スペシャル世紀を越えて」の一つとして、日吉台地下壕の取材・放映を計画しており、今後地下壕の見学などにも影響がでると考えられるので、見学のルールなど考えていきたい。慶大としては境界の問題等あり、地下壕の調査が必要だと考えている。

これまで調査を進めている保存の会の協力ををお願いしたいと思っている、と。要約すればこののような内容であった。

大学側では、見学の際の安

全確認を重視しており、事故

が起きた場合の責任の在りか

について、とか、見学は物見

遊山の人でなく、研究者など

学問的な目的の人であつて欲

しい、とか、寺田会長が慶應

高校を定年退職されたので、

外部の人になられたなどが話

題になつた。

当日は大学の考えが口頭で

述べられただけで、具体的な

話し合いはこれから行なわれ

ることになる。

今後、見学の申請書を提出

したり、手数がかかることに

なるかもしれないが、双方の

了解のもとで見学が行なわれ

ることは、将来の明るい見通

しつながらるようにも考えら

れる。

談 寺田貞治

亀岡敦子

喜田美登里

白百合隊市ヶ谷駅屯地の旧陸軍軍

陸軍軍械戸所研究所の跡地の一部の保存について

移転復元なる

明治大学生田キャンバス

陸軍軍械戸所研究所以ある明大生田キャンパスでは、

施設の老朽化等のため再整備

が進められている。そのため

登戸研究所時代の建物が取り

壊されようとしており、ここ

数年保存運動が続けられてき

た。

つい最近の情報では、学長

を中心とした「保存・活用の

ための調査委員会」（正確な

名称は不明）が発足し、4月

以降、建物の保存方針、文書

ほか資料の整理・保存の方法、

展示設備等について検討に入

ると言うことで、今後の動きが注目されている。



九段の昭和館（別掲）も開館したそうですし、完璧とはいひないまでも、保存され、公開されることは喜ばしいことだと思います。

昭和館に展示される戦中・戦後の生活を伝える資料—東京都千代田区九段南で25日、小林努写す



戦中・戦後の生活の労苦を後世に

厚生省が東京都千代田区九段南に建設していた戦没者遺族援護施設「昭和館」が完成し25日、報道陣に内部を公開した。設立趣旨や歴史的資料を保存・陳列する施設にした。27日に開館記念式を行い、28日から一般公開される。

同館は総工費123億円で、地上2階地下2階建て、延べ84377平方㍍。同省によると、「戦中・戦後の国民生活の労苦を後世に伝える」のが目的で、勤員学徒が使用した旋盤、空襲警報発令中の看板など実物資料8000点、戦中遺書や

「昭和館」が完成

体験記など6万7700冊や、ニュース映画、報道写真など映像音響資料も收藏している。6、7階は有料（大人300円、高校・大学生150円、小・中学生80円）の常設陳列室。開館時は母と子の戦中・戦後にアーマーに千人針、防毒頭巾など收藏する実物資料の1割の800点を陳列する。4階の図書室、5階の情報検索・映像室は無料。

初年度の運営費は6億円で、運営は日本遺族会に委託される。当初、建物の名称は「戦没者遺児記念館」とする案が有力だったが、最終的に「戦没者」遺児が消えた。遺族からは「戦争の真実を伝えるものになつてない」との指摘もあり、「祈念館問題を考える会」など18の市民団体が連名で抗議声明を出している。

「ピースロード」～蟹ヶ谷から日吉までの多摩丘陵を歩く～

99川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会

3月7日に地下壕を見学にこられた方たちの見学コースです。面白そうなので掲載させていただきました。春爛漫、会員のみなさんも歩いてみられては如何がでしょうか。

〈5つの柱〉

- I、原始、多摩丘陵は平和だった。
- II、古代から近世までの戦争と平和を考える。
- III、太平洋戦争期の戦争遺跡を考える。
- IV、障害者とともに生きる地域。
- V、自然との共生・文化の創造。

3、井田病院界隈

- ①井田病院
- ②井田山緑地の保全

3



1、蟹ヶ谷界隈

- ① 海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊
- ② 蟹ヶ谷分遣隊地下壕
- ③ 専念寺
- ④ 稲毛道

2、東神庭遺跡界隈

- ① 東神庭遺跡
- ② 井田村塁跡
- ③ 川崎市心身障害センター
- ④ 陽光園
- ⑤ 老人いこい施設長寿荘
- ⑥ 肢体不自由児施設しいのき学園
- ⑦ 明望園
- ⑧ 県立中原養護学校
- ⑨ 中部地域療育センター
- ⑩ ひとみ座（人形劇）

4、真福寺界隈

- ① 鎌倉道・駒ヶ橋
- ② 真福寺
- ③ 下田神社

5、慶應義塾大学日吉界隈

- ① 金蔵寺の板碑三基
- (1) ② 東急電鉄と日吉のまちづくり
- ③ 井上正夫演劇道場
- (2) ④ 慶應義塾大学日吉台の自然
- ⑤ 旧海軍連合艦隊指令部と地下壕

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の
思い出話 27

日吉周辺のこと

さききて・寺田貞治

I氏・日吉本町

私は現在東急バスの車庫になつてゐる所にあつた家で生れ、昭和二年に日吉駅西口近くに移つた。その頃の日吉の町には七、八軒しか家がなかつた。綱島街道は一五年頃に出来た。神奈川区から港北区になつた頃である。

この道路は車用道路として出来たといわれる。小杉から元住吉にかけて航空兵器工場など車需工場があり、また南武線で運ばれてきた重需物資を横須賀に運ぶためにできた

のではないかと考えられる。

以前は蟹ヶ谷を通る大山街道で車需物資を運んでいたが、坂が多く、道が細く曲りくねつてゐるため、新道が作られたのであろう。南武線も軍需物資を運ぶために作られたといわれる。

蟹ヶ谷に通信隊が來たのは五年頃であつた。一個小隊三五、三六名がいた。

臺席が來るというので電話局が九年に出來た。軍の要請もあつたのではないかという。日吉局が川崎局の〇四四になつてゐるのは、當時横浜局〇四五は古いタイプの電話であつたため、どうせ作るなら新しいものをと東京・川崎の新しいものに合せ、川崎の中原局を中継して開設されたためである。

私は一三年一月一〇日に陸軍に現役で入隊し、南京に行

つた。南京攻略の四ヵ月後で、

虐殺の死体があちこちにあつたのを目撃した。クリークの中には骨がいっぱいあつた。

対米戦の認識

実松 譲氏の話

さききて・寺田貞治
学校の青年学校で教育をしたこともある。

首脳は米国の実力をよく知つていて、米国と開戦の恐れのある日独伊三国同盟には強く反対していた。



南京占領で、「日の丸」をかけ勝ちどきをあける日本軍。一九三七年十二月十三日。
『画報躍進之日本』一九三八年二月号より

しかし、三国同盟を主張していた陸軍は、ドイツ車の快進撃に眩惑され「ヒットラーのバスに乗り遅れるな」とばかりに米内内閣を諂卑に追いやつた。次に近衛内閣が誕生するが、外相に向独一刃倒の松岡洋右がなり、三国同盟締結に向けて急進展した。この時の海相は吉田善吾で、同盟に反対であったが、次第に海軍内部でも同盟に同調するものが多くなつて行つた。

人ふり
婦人
新し

第2306号



国際連盟理事会 満州國承認問題で意見を主張している松岡洋右全権、中央右、起立している人物。

日本歴史24 中公論社 1967年

ある時彼は「こ」のままでは日本は滅亡だよ」と一人言をいい、心身共に疲労困憊し、海相を辞任した。

代つて対米戦に対する認識があまい及川古志郎が海相になり、半月もたたないうちに三国同盟が開戦で承認され、日米開戦は避けられなくなり、真珠湾の奇襲によって第二次大戦の幕が切って下ろされた。

以後、ミッドウェー海戦までは、予想を上回る速さで勝ち進み、西はビルマ・インド洋、南はニューギニア・南太平洋の奇襲によって第二次大戦の幕が切って下ろされた。

以後、ミッドウェー海戦までは、予想を上回る速さで勝ち進み、西はビルマ・インド洋、南はニューギニア・南太平洋の奇襲によって第二次大戦の幕が切って下ろされた。

平洋、そして東太平洋まで手中に納めた。しかし、ミッドウェー海戦を境にして戦局は悪化はじめた。

開戦の翌年・昭和一七年六月、野村・栗栖大使とともに日米交換の引揚げ船で帰国の途についたが、米兵が新聞を見て陽気に騒いでいるので、ウェイトレスを抱込んで新聞を手に入れ、読んでみるとミッドウェー海戦における日本側の完敗であり前途を危惧した。アメリカではダンプカーを使っていたので、こんな国と戦争したら大変なことになると感じていた。

一七年八月日本に着き、軍令部第三部（情報部）勤務になり、東京・霞ヶ関の海軍省庁舎（現農林水産省）の三階で対米情報に取り組むことになつた。

アメリカから帰った私の目に写つた日本は、恐るべき敵にまわして、アメリカを向うにまわして、國を挙げて戦っている姿ではなかつた。退院になると職員は殆ど帰宅し、海軍省は火消えたようになり、夕食時まで残つていた士官も、家庭に参列していた。

一六年秋、ワシントンで在英海軍武官から「イギリス人は死者に対する最上の供養は、この戦いに勝つことであると

勤務振りを建物の燈火のつき具合によつて調べたところ、退院時より一時間位だと殆ど全部、二、三時間後で約半分。四時間後でも一部の部屋には燈火がともつていた。平時のアメリカ海軍省の勤務振りよりも、戦時下の日本の海軍省の方があつとのんびりしてい

は、先が思いやられると感じた。また、日本の戦没者に対する葬送は丁重を極め、一人の戦没者を何回も弔つていた。族達は、靖國神社の臨時大祭に参列していた。

一六年秋、ワシントンで在英海軍武官から「イギリス人は死者に対する最上の供養は、この戦いに勝つことであると

なし、野邊の送りは近親者のみの簡素なものでませ、ますます戦争の遂行につとめている」と聞いていたので「我が國の興廢にかかわる戦いだから、イギリス人に劣らず戦争遂に邁進しているに違ひない」と固く信じて祖国の土を踏んだ私の期待は完全に裏切られた。

（生協ニュース教職員版第五〇号、四二号、より抜粋転載）

